



2017. 9. 28

## 大盛況!! 幼稚園まつり!!

幼稚園まつりが無事終わりました。保護者の皆さん、ご協力本当に有り難うございました。楽しそうな子どもたちの様子を見てみると、私も幸せな気持ちになりました。

### 【作品展示】

今回のテーマは、海響館です。9月上旬に親子バス遠足で海響館へ行きました。そのときの印象を再現したものになりました。

今回は、お魚、ペンギンなどの海響館にいたものとそれを見ている自分という一人2作品で構成されています。だから子どもたちのがんばりも例年の2倍ということになります。展示スペースが楽しい海響館になっていました。



年少組の作品は、かわいい魚たちでした。目はボタン、鱗はマカロニで作っていました。壁面は小さな魚が集まってスイミーのような大きな魚になっていました。クラスというつながりを感じさせるものになっていました。いちばん苦労していたのは、プールに魚を浮かべたクラスです。どう浮かべるかで、ギリギリまで苦労していました。プールの空気は抜けるし、魚は水没しそうになるし、先生たちは大変だったのです。

年中組は、ペットボトルでペンギンを作っていました。素材はペットボトルなんだけど、本当にペンギンらしい雰囲気になっていました。大半のペンギンは、床にちょこんと身動きしないで立っています。海響館のペンギンコーナーでも同じような雰囲気でした。いくつかのペンギンは天井から吊されていました。そのペンギンがエアコンでゆらゆら揺れていました。水の中を、飛ぶように泳いでいたペンギンたちを彷彿させました。くちばしのストローと、羽根のフォークなど身近な素材がうまく使っていました。でも、よく見るとそれぞれのペンギンの表情が違ってきます。とても個性的な作品に仕上がっていました。



年長組は、版画に力を入れていました。いろいろな素材が効果的に使われ、よく表現できていました。タコの足は、プチプチとつぶす荷造用の緩衝材です。鱗やエラは、リンゴや梨の傷付きを防ぐ発泡スチロール素材でした。他にもレースの生地、モール、波形のダンボールなどが使っていました。それぞれの作品に素材の特徴がうまく生かされ、立派な表現作品になっていました。年長組のポテンシャルを感じました。また、イルカやペンギン、魚などを見ている自分たちが再現されて、臨場感がありました。今回の幼児部作品展は、完全に野田海響館になっていました。さらに、入口はおばけ屋敷か？と思わせる演出がされており、ブラックライトで蛍光色の魚たちが浮かび上がる工夫がされていました。なかなかの演出でした。



また、子育て支援センター(たまごのおうち)では、乳児部の皆さんの作品展が行われていました。0歳は足形、1歳は手形、2歳は森にいる仲間を作っていました。みんなで「りんごのもりのなかまたち」を力を合わせて作ってくれました。幼稚園まつりの前日、ねこ組さんのところへ行くと口々に「あした、幼稚園に行く」といってくれました。

0歳から5歳までの全部を合わせて見ると、子どもたちの成長や発達がよくわかりました。素晴らしい作品展示になりました。

## 【PTAバザー】

子ども広場は、たくさん子どもたちが押しかけていました。魚釣りのクジは、磁石で



獲物を釣り上げようとするものです。なかなかうまくできない人もいましたが、頑張って釣ることができました。ボール投げは、ダンボール箱に穴をあけ、その中にボールを投げ込む遊びです。コントロールよく投げ入れることが、意外に難しいことがわかりました。スーパーボールすくい、オタマでボールをすくい上げる遊びです。しゃがみ込んで取り組んでいました。



うどん、バザー、わたがし、売店、ジュースなどの販売に関わっていただいた皆さん、有り難うございました。本当に楽しい一日でした。皆さんの労をねぎらいたいと思いました。



# 田んぼアートを見てきました。

9/26(火)年長組の皆さんが仁保の田んぼアートを見に行きました。これまでもお知らせしましたが、穂が熟しているときに強い雨で倒れてしまいました。アートの全景がよくわからなくなっていました。しかし、子どもたちが力を合わせて植え付けた田んぼです。どんな様子なのか見せてあげたいと思い、田んぼへ出掛けました。



ここには、黒米、赤米、黄色のお米の三種類が植えてありました。これらは全てもち米で、穂の丈が通常のうるち米より高いのです。やはり重みに弱いのかな？と思いました。しかし、以前にドローンで撮ったアンパンマンの写真を見せてもらい、子どもたちは納得したようでした。自然相手では、なかなか思うように進まないことも知りました。



食物アドバイザーの白木さんが稲の穂を説明してくれましたが、穂の先にネズミがつくった巣があったのを見せてくれました。もういなくなった後のようでした。土地代もローンも必要ないのです。こんな家が羨ましいと、こっそり思いました。

最後に子どもたちは、黒米と赤米の穂を一本ずつもらいました。帰りのバスの中でも、しっかりと持っていました。「これで餅ができるの？」と何度も聞かれました。しかし、餅を作るには、乾燥させ籾を取り除き、糠も取り、蒸してつくという工程があります。しかも、もらった穂だけではもち米の量は足りないでしょう。例年行われる幼稚園の「もちつき」には、今回の赤米を混ぜて色つきのお餅もつくことを考えています。